

# 道路の走りやすさマップのカーナビ・Webシステム等への活用に向けた研究について



高度情報化研究センター

情報基盤研究室 室長 **遠藤 和重** 主任研究官 **有村 真二** 研究員 **湯浅 直美**

(キーワード) 走りやすさ、カーナビ、交通事故削減

## 1. 道路の走りやすさマップについて

従来の道路地図では、道路は、国道・都道府県道などに区分されているが、それでは走りやすさの実状が把握しにくい。そこで、車線数・歩道設置状況などの道路構造特性による「走りやすさ」に着目して道路を区分した「道路の走りやすさマップ（図1）」が作成された。

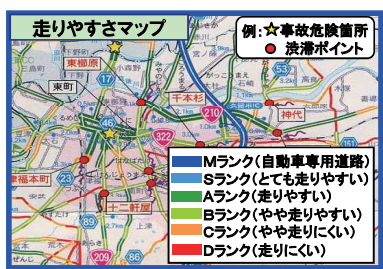


図1 道路の走りやすさマップ

## 2. カーナビ等への活用について

近年普及しているカーナビ等には、距離、時間、渋滞・事故の情報等、多様な情報を総合的に利用した経路検索ができるという利点がある。そこで、道路の走りやすさマップをカーナビ等に活用することで、よりバランスの良い経路検索が期待できる。これにより、運転疲労軽減、交通事故削減、高齢者の安全運転支援、土地勘の無い観光客の利便性向上等につながると期待される（図2）。



図2 高齢者の安全運転支援イメージ図

そこで、カーナビ等関連の企業と、カーナビ等への活用に向けた共同研究を行った。

官側は、全国のデータの収集・提供、更新方法の検討、社会的効果の整理、全体調整などを行い、民側は、データの組み込み、ルート検索機能の開発などを行った。

## 3. 国総研における成果

### (1) 走りやすさデータ管理Webシステムの構築

道路の走りやすさデータは、新設道路の反映等、継続的に維持更新を行う必要がある。そのため、データの品質管理・維持更新のツールとして、データの作成・蓄積・修正・更新等の機能を有した「走りやすさデータ管理Webシステム」を構築した。

### (2) データ仕様検討

民間に提供するデータは、共同研究における検討の結果、カーナビ等のデータフォーマットと親和性が高い、デジタル道路地図（DRM）に関連付けたデータ形式で提供することとした。

### (3) 社会的効果の整理

道路の走りやすさマップのカーナビ等への活用による効果を明確にするため、実走行実験等により、社会的効果の整理を行った。

結果、走りやすさランクが高い道路の方が、ドライバーの肉体的・精神的疲労が少なく、ヒヤリハット発生頻度が低いことなどが確認された。

## 4. 今後の予定

共同研究を通して、道路の走りやすさマップのカーナビ等への活用のための基礎的環境を整えた。今後も、民間における開発のフォローアップを行う予定である。